

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社長



自動車不況の影響は大きい、 環境対策商品で善戦

◆2009年5月期第2四半期業績

国内外とも厳しい事業環境の中、インテリア事業が前年同期比95%で減収、自動車・車両内装事業は海外事業の伸びに支えられ同105%の増収で推移し、連結売上高全体では10月の修正予想より若干上回り、409億81百万円（前年同期比62百万円増）となった。しかし、原材料価格の高騰や販管費の増加、米国STAの収益悪化により、利益面では前年同期に比べ大きく下回り、営業利益4億64百万円（前年同期比8億2百万円減）、経常利益5億99百万円（同6億53百万円減）、純利益44百万円（同5億68百万円減）となった。

セグメント別にみると、インテリア事業では、ペットボトル再生繊維「スミトロン®」を使ったリサイクルカーペットや、「トリプルフレッシュ」消臭加工を施した商品など、当社ならではの機能性の高い商品群で善戦したものの、オフィスビルや商業施設の新規・リニューアル工事の減少や、一般消費者の消費マインドの冷え込みが大きく影響し、売上高178億3百万円（前年同期比9億52百万円減）、営業利益2億26百万円（同2億54百万円減）となった。

自動車・車両内装事業の自動車内装材分野では、世界規模での自動車販売台数の減少から内装材市場が縮小し、価格競争の激化や低価格帯商品への需要シフトなど、事業環境に一層厳しさが増した。国内では、今期初より市場でのシェアを拡大していたものの、10月以降の経済情勢の激変から売上高に急ブレーキがかかり、前年同期比微増となった。利益面では原材料やエネルギー価格高騰が影響し減益となっている。一方、海外では、米国STAが売上高は順調に伸ばしたが、利益面での改善が遅れており、現在、国内から収支改善へ向けた支援を行っている。中国SPMはシート表皮材の生産を伸ばし、増収増益となっている。鉄道やバスを対象とした車両内装材分野では、新幹線N700系にも採用されたリサイクル性に優れたシートクッション「スミキューブ・e」が「安全と環境」の観点から非常に高い評価を得ており、順調に売上を伸ばしている。自動車・車両内装事業全体では、売上高198億45百万円（前年同期比10億52百万円増）、営業利益7億37百万円（同5億76百万円減）となった。

その他事業としては、中国で生産しているホットカーペット事業が受注量を伸ばし、またOEM事業は国内では低調だったものの輸出が好調で、航空機向け内装材も堅調に推移し、全体としてはほぼ横ばいの、売上高33億33百万円（前年同期比37百万円減）、営業利益2億34百万円（同1百万円減）となった。

◆2009年5月期通期業績見通し

2009年5月期通期の連結業績予想は、期初計画では売上高830億円であったが、昨今の世界的な景気後退を受け、2008年10月に810億円へ下方修正し、同時に営業利益15億円、経常利益17億円、純利益7億円とした。当社では自動車・車両内装事業の売上が全体の半分弱を占めているので、今後、自動車市場がさらに減速するようなことがあれば、当社の業績予想も下回る可能性がある。細心の注意を払って動向を見極め、フレキシブルに対応していきたい。今後の課題は、期初計画より利益面で大きく下回っている米国STAの立て直しを急務とし、国内では収縮経済下に対応したローコストオペレーション体制と利益体質の構築に取り組み、当初計画に一步でも近づけるよう努力することである。

なお、2009年5月期の中間配当は2.50円であり、期末配当も2.50円とし、前期と同じく年間5円の配当を予定している。

◆中期経営計画“ACTION-2008”の進捗状況

当社では3年ごとの中期経営計画を立てているが、今期は第2期中期経営計画“ACTION-2008”の最終年度である。

当初の目標のうち、「連結売上高800億円」、「インテリア事業と自動車・車両内装事業の比率を50:50」、「2009年5月期までに売上高に占める海外売上高を10%以上」、「3年間で20億円の有利子負債圧縮」の項目について

は、既に達成された。

特に「インテリア事業と自動車・車両内装事業の比率を50：50にする」という点では、インテリア事業の売上高が2007年5月期が376億円、2008年5月期が378億円と推移しているのに対して、自動車・車両内装事業の売上高は同340億円、381億円となっており、2008年5月期には既に逆転している。今後は特に自動車向けの売上動向が注目される。

一方、「2009年5月期までに営業利益率3.5%以上」という目標は達成しつつあったが、今期は急落し達成には程遠い状況となっている。「自己資本比率38%」については、有価証券の株価下落が大きく、今期の自己資本比率は33%強である。しかし評価損はそれほど大きく出ないと予想している。

設備投資については、中期経営計画3カ年合計で国内24億円、海外12億円、IT関連4億円、計40億円の投資を計画していたが、海外拠点への投資を追加で行ったため、国内19.5億円、海外15億円、IT関連3億円、計37.5億円となる見通しである。

◆環境に配慮した商材をアピール

当社ではリサイクルや軽量化など、環境にやさしい商品を多く扱っている。インテリア分野ではペットボトルリサイクル繊維「スミトロン®」を用いたリサイクルタイルカーペットやエコマークカーテンなどがあり、自動車・車両内装材分野では新幹線でも採用されたリサイクル性に優れたシートクッション材「スミキューブ・e」をはじめ、軽量・吸音カーペットなどのラインナップが充実している。

2008年10月には「環境フォーラム2008」を開催、住江グループの環境対策への考え方や行動指針を発表し、同時に当社の「環境にやさしい商品」をアピールした。約440名の参加という盛況ぶりで、環境問題への関心の高さがうかがえる。また、2008年12月にはBS朝日にて「夢のリサイクルカーペットをつくった男たち」と題した60分の特集番組が放送された。当社の環境問題への取り組みが社会的に評価されることは、社員やその家族にとってモチベーション向上につながる。「環境にやさしい会社」ということを積極的にアピールし、厳しい時期ではあるが環境対策商品の開発・販売に注力していきたい。

◆ 質 疑 応 答 ◆

米国STAの赤字はどの程度予想されているのか。

上期は約5億円の赤字、下期は約50百万円の黒字、通期で4億50百万円の赤字を予想している。

(平成21年1月14日・大阪)

(平成21年1月16日・東京)